

奈良時代	
710	平城京遷都 ^{せん と}
712	『古事記』
720	『日本書紀』
759	『万葉集』 最後の歌
平安時代	
794	平安京遷都
9c 後半～ 10c 初め 『竹取物語』	
905	『古今和歌集』 ^{こ ぎん}
1000 頃 ^{ごろ}	『枕草子』 ^{まくらのそう し}
1008 頃	『源氏物語』
12c	『今昔物語集』 ^{こんじゃく}
1185	平家滅亡 ^{めつぼう}
鎌倉時代 ^{かまくら}	
1205	『新古今和歌集』
13c 頃	『平家物語』

竹取物語 平安時代の初め頃に書かれた現存する最古の物語。作者未詳。かぐや姫の誕生から、五人の貴公子たちによる求婚と失敗、帝の求婚、かぐや姫の昇天までを簡潔な文体で語る。

竹取物語 参考資料

『源氏物語』の「*えあわせ絵合」の巻では、『竹取物語』を「物語のいではじめの親」と評価しています。

まづ、物語のいではじめの親なる竹取の翁おきなに宇津保うつつほの俊蔭としかげを合はせて争ふ。

まず初めに、物語の元祖である竹取の翁の物語の絵に、宇津保の俊蔭の物語の絵を合あわせて優劣ゆうれつを競きつことになる。

*絵合 左右の二組に分かれて、互たがいに持ち寄った絵を出し合い、その優劣を競う遊び。

*宇津保の俊蔭 平安時代中期の物語『宇津保物語』の「俊蔭」の巻。遣唐使けんとうしの清原俊蔭きよはらのとしかげが唐とうへ渡る途中で波斯国はしや（ペルシャ）に漂着ひょうちゃくし、阿修羅あしゅらに出会い秘曲ひきよくと壺琴れいきんを授けられて帰国する。